

## 物価上昇 2%にした時の実に生活に使えるお金は

ChatGPT:

ご質問ありがとうございます。

ここでは、手取りが 1.5 倍になっても「物価が年 2%上昇」した場合に、\*\*実際に生活に使えるお金(実質手取り=購買力)\*\*がどうなるかを試算します。

### ◆前提条件(10 年間で)

- 年物価上昇率: 2%
- 名目手取り: 現在の 1.5 倍
- 計算は「実質購買力=名目手取り ÷ インフレ率累計」で行います

### ◆インフレ累計率(2% × 10 年)

複利計算すると:

$$(1.02)^{10} \div 1.219 (1.02)^{10} \div 1.219$$

つまり、10 年で物価は約 21.9%上昇します(現行の 100 円が約 122 円の感覚)。

### ◆シナリオ比較

項目	現在(2024 年) 10 年後(名目) 10 年後(実質・購買力換算)		
手取り年収	3,750,000 円	5,625,000 円	約 4,615,000 円
月額ベース(生活資金)	約 31.25 万円	約 46.9 万円	約 38.5 万円相当
実質手取り増加率(購買力) —		+50%(名目)	+23%(実質)

### ◆解釈: 本当に生活が豊かになるか？

- 名目では 50%増えたように見えるが、実際に買えるもの・使えるお金はたった 23%の増加
- つまり、1.5 倍の手取りでも「生活のゆとり」は 1.2 倍程度

### ◆さらに重要な視点

要素	影響の内容
家賃・光熱費	インフレにより確実に上昇。実質可処分所得を圧迫。
教育・医療費	公共性が高いが、負担増の可能性も。
税金・保険料	収入増に応じてさらに上昇（比例または累進）
老後資金・貯蓄	実質的に「増えにくくなる」

## ◆結論：物価上昇があると…

「名目で 1.5 倍稼いでも、実際に使える生活資金は 1.2 倍程度しか増えない」  
→ これがインフレと税・社会保険負担の“見えない重し”

## ◆対策（生活者視点）

- ・ 昇給だけでは生活改善しない → 節税・運用・再設計が必要
- ・ 手取りベース＋物価調整の賃金交渉が重要
- ・ 固定費（家賃・保険・光熱費）削減が効果的